

# 千里救命救急センター所長 **藤井 千穂氏(申6期)講演会**

## 「命を救う」～あなたの愛する人と同じように～

平成16年8月7日、定例評議員会に先立って山桜会及び文化活動委員会主催の第一回講演会が大手前中高視聴覚室で行われた。

講師藤井千穂氏は昭和41年大阪大学医学部卒業後、同大特殊救急部、川崎医科大学教授等救急救命医療一筋に活躍され、平成13年より大阪府立千里救命救急センター所長を務めておられる。

氏は、豊富な経験をも交えて我が国の救急医療の現状と欧米諸国との違い、とくに一次救命処置の早急な必要性について分かりやすく、真摯にお話しを進められた。人は、心肺停止後何らかの処置が為されなければ3分で50%が死亡する。しかし、もし心肺停止後そばにいる人が直ちに一次救命処置(人工呼吸と心マッサージ)を行い、更に通報で駆けつけた救急車に医師が同乗して二次救命処置が行われた場合には救命率は大幅に上昇する。

先進諸国では、1970年代より「15分医療」への取り組みが真摯に、着実に行われている。ドイツでは、全国52ヶ所にドクター・ヘ



リ(医師が同乗するヘリコプター)が常に待機し、それぞれ行動半径50キロで全土をカバーしている。30キロ以内ではドクター・カーが対応する。これにより、1970年から1998年までに救急死亡率が64%減少したという。



一方、我が国では救急病院の設備は欧米並に優れているが、病院に搬送するまでの一次救命処置に関してはやっと救急救命士法が出来、平成13年よりいくつかの都市で救急車に救急救命士が同乗し救急蘇生法、気管挿管、輸液等が行えるようになり、心拍停止時(心室細動等)に除細動処置等の医療行為が条件付で行えるようになったばかりである。

先進諸国は今や「8分医療」をめざしており、この格差は早急に縮めなければならない。救急医療に関する法整備を急ぐとともに、特に人が倒れたとき、そばにいる人がすぐ心マッサージと人工呼吸をしてあげる一次救命処置の教育と普及に務めねばならない。

そばで人が倒れたら「あなたの愛する人に対するのと同じように」一次救命処置をしてあげて下さいと氏は一時間余に及ぶ講演を締めくくられた。

要約 文責 文化活動委員長 秋山 陽彦

## 中高(茨木) スポーツ大会に参加 & 山桜会第5回理事会

山桜会理事、評議員の有志が10月9日(土)中高等学校PTA教職員親睦スポーツ大会に参加しました。山桜会はソフトボールにエントリーしておりましたが、台風22号接近に伴いグラウンドでのスポーツはすべて中止となり、ソフトバレーボールへの急遽の参加となったにもかかわらず、1回戦は勝利しました。大会終了後は会議室にて山桜会第5回理事会を開催させて頂き、その後食堂で先生方、PTAの役員方と懇談会を持ちました。



ソフトバレーボール



第5回理事会